

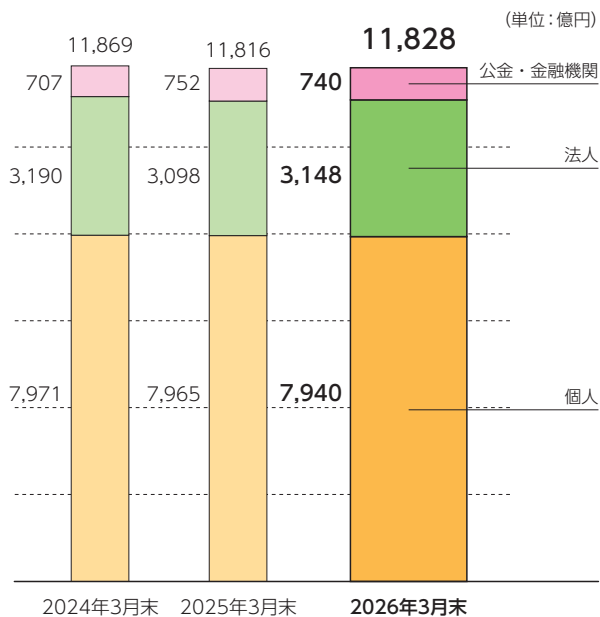
業績ハイライト

ここでは、主要な項目についてご説明いたします。詳細な計数資料等につきましては、「資料編」をご覧ください。

預金残高(譲渡性預金含む)

1兆1,828億円

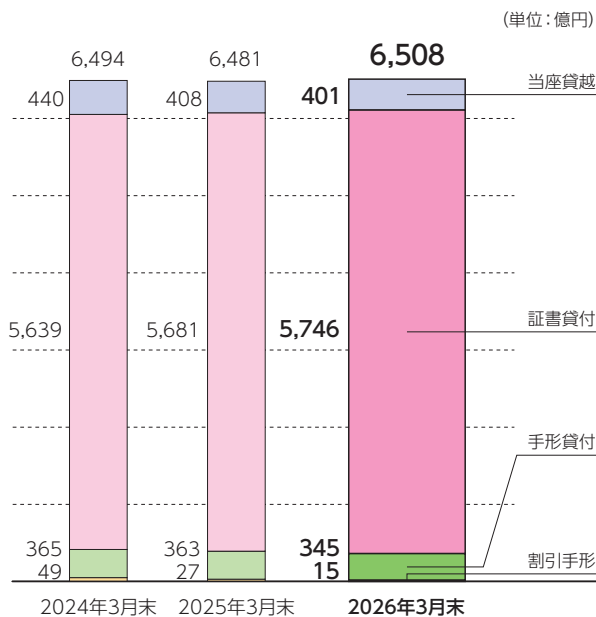
期末残高は、前期末に比べ11億円増加の1兆1,828億円となりました。



貸出金残高

6,508億円

期末残高は、前期末に比べ26億円増加の6,508億円となりました。



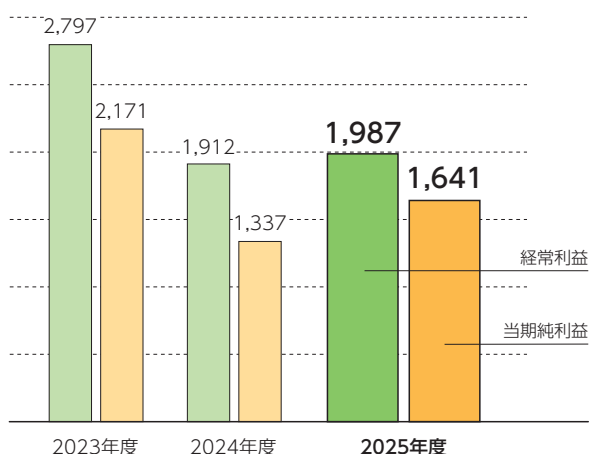
損益の状況

経常利益 19億87百万円

当期純利益 16億41百万円

経常利益は前期比75百万円増加し19億87百万円、当期純利益は前期比3億3百万円増加し16億41百万円となりました。

(単位: 百万円)



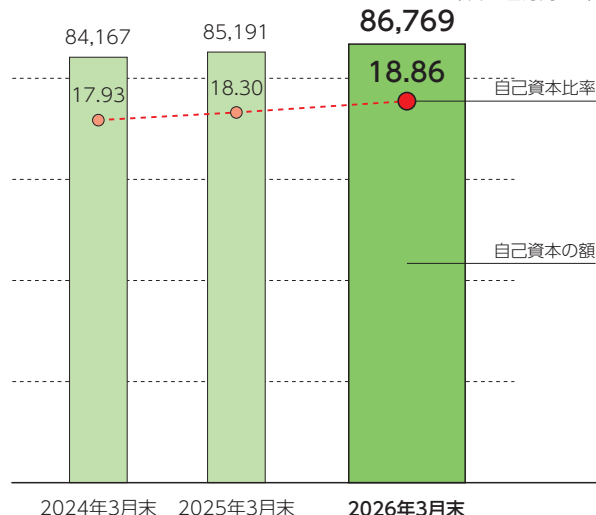
自己資本の額・自己資本比率

自己資本の額 867億円

自己資本比率 18.86%

自己資本の額は867億円、自己資本比率は18.86%となりました。

(単位: 百万円・%)



適正な「資産の自己査定」に基づく償却・引当等を実施して、
資産の健全化を進めております。

不良債権額及び不良債権比率

不良債権比率 **1.64%**
保 全 率 **92.16%**
引 当 率 **81.37%**
実質の
不良債権比率 **0.12%**

※実質の不良債権比率＝(不良債権額－保全額)÷総与信額

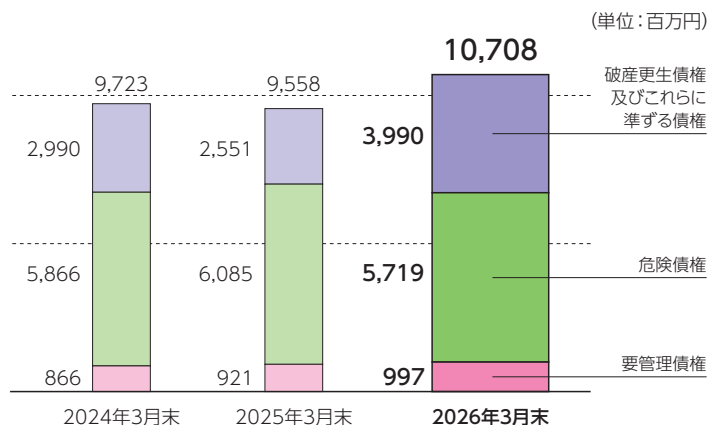
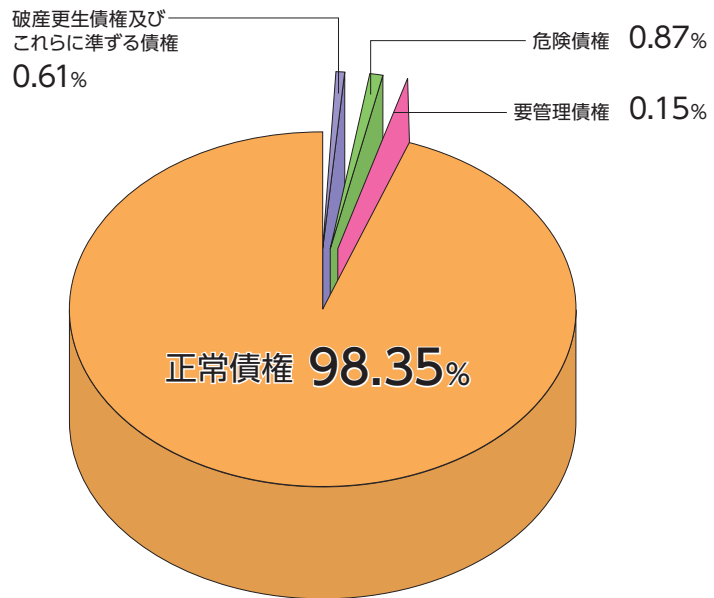
『金融機能の再生のための緊急措置に関する法律』(金融再生法)に基づく開示債権の状況について、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」の不良債権額は107億8百万円で、不良債権比率は1.64%となりました。

この開示債権は、全てが回収不能な債権ではなく、このうち担保・保証等で62億2百万円、さらに貸倒引当金で36億66百万円が保全されております。結果、未保全額は8億38百万円となっております。

実質の不良債権が、総与信に占める比率は0.12%と引き続き低率を維持しております。

また、会員勘定は869億61百万円で資産の健全性維持に対する備えは十分にできております。

今後とも、お取引先の経営改善・再生支援に努め、資産内容の一層の健全化を図ってまいります。



金融再生法開示債権の推移

(単位：百万円)

区 分	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
不 良 債 権 額	9,723	9,558	10,708
破 産 更 生 債 権 及 び こ れ ら に 準 ず る 債 権	2,990	2,551	3,990
危 険 債 権	5,866	6,085	5,719
要 管 理 債 権	866	921	997
正 常 債 権	640,601	639,503	641,507
合 計	650,324	649,061	652,216
不 良 債 権 比 率	1.49%	1.47%	1.64%

※当金庫は部分直接償却を採用しておりません(ただし、合併により引き継いだ一部貸出金を除く。)

※債権額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。